

2023年度 卒業生・修了生キャリアアンケート調査結果

【1. 調査の概要】

1. 調査対象

2022年3月に星美学園短期大学幼児保育学科を卒業または、専攻科幼児保育専攻を修了し、本学で取得した資格を活かして就職した卒業生を対象として実施した。主な資格(幼稚園教諭二種免許状、特別支援学校教諭二種免許状、保育士資格等)

次の表「卒業生・修了生進路(就職・進学)状況」の、青色部分が幼児保育学科調査、緑色部分が専攻科幼児保育専攻の調査対象数となる。

※離職したことがわかっている卒業生・修了生については調査の対象から除外した。

2021年度卒業生・修了生進路(就職・進学)状況

学科	幼児保育学科卒業生 (令和2年入学)								専攻科幼児保育専攻修了生 (令和3年入学)										
在籍数	71								50										
卒業/修了者数	71								50										
進路決定者数	(就職)10 (進学)60 (その他)1								(就職)45 (進学)3 (その他)2										
進路内訳	幼稚園	保育所	こども園	施設	特別支援学校(臨時)	一般企業無期雇用	その他	進学		幼稚園	保育所	こども園	公務員(非常勤含む)	施設	特別支援学校(臨時)	一般企業有期雇用	その他	進学	
								専攻科	大学									大学	海外
	6	1	0	1	1	1	1	58	2	10	21	3	5	1	3	2	2	2	1
進路決定率	100%								100%										

2. 調査期間及び方法

2022年12月～2023年2月12日の期間に実施した。アンケート調査依頼は、就職先と、社会人1年目、社会人2年目の卒業生・修了生に書面にて調査への協力の依頼をした。回答は、回答用紙に記入して、同封の返信用封筒で返送する、又はGoogle Formに入力する形で回答していただいた。なお、同一施設に複数の学生が就職している場合は、それぞれの学生について回答していただいた。

3. 回収率

2021年度卒業生 就職先からの回答(保育・教育関係)は、8施設8名のうち7施設7名分の回答が得られ、回収率は88%であった。

2021年度修了生 就職先からの回答(保育・教育関係)は、37施設40名のうち28施設31人分の回答が得られ、回収率は78%であった。

2021年度卒業生(社会人1年目)からの回答は、対象者8名のうち2名から回答が得られ、回収率は25%であった。

2021年度修了生(社会人1年目)からの回答は、対象者40名のうち24名から回答が得られ、回収率は60%であった。

2020年度卒業生(社会人2年目)対象者1名からの回答は得られなかった。

2020年度修了生(社会人2年目)からの回答は、対象者50名のうち20名から回答が得られ、回収率は40%であった。

4. 主旨と目的

本学の幼児保育学科、専攻科では、下記の「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」を掲げ、教育を行っている。その教育成果を自己評価するためにアンケート調査を実施した。アンケート調査は、本学2021年度卒業生、修了生(2022年4月から勤務、社会人1年目)、2020年度卒業生、修了生(2021年4月から勤務、社会人2年目)が次のディプロマ・ポリシーを身につけているかを評価し、今後の本学の教育改善に役立てることを目的とする。

星美学園短期大学の幼児保育学科ディプロマ・ポリシー ※2021年度卒業生が在学時のもの

1. 保育の実践力: 保育をする上で必要な基本的知識・技術を身につけ、説明、実践することができる。(知識技術)
2. 共感する心 : 子どもをいとおしむ心とまなざしをもち、子どもの立場に立って考えたり、共感することができる(共感愛情)
3. 言葉で表現する力: 保育をする上で適切な言葉を用いて話す力、書く力を身につけている。(言葉遣い、文章を書く)
4. 人とかかわる力: 他者と協働しながら計画・実施・振り返り・改善する体験を通して、社会性を身につけている。(協働)

星美学園短期大学の専攻科ディプロマ・ポリシー ※2021年度修了生が在学時のもの

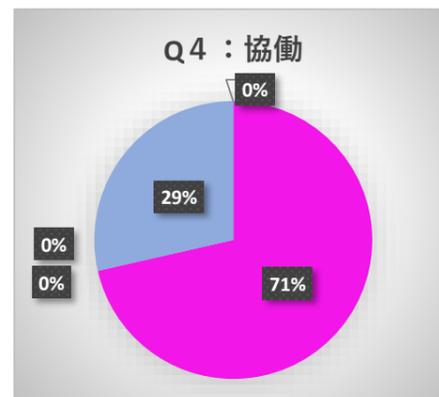
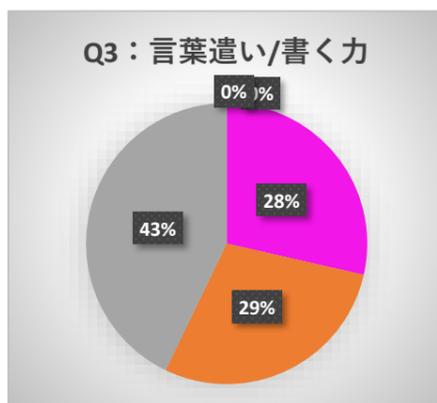
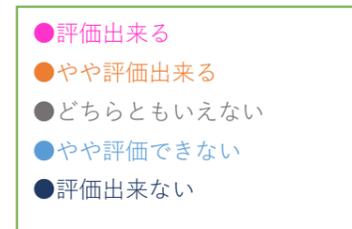
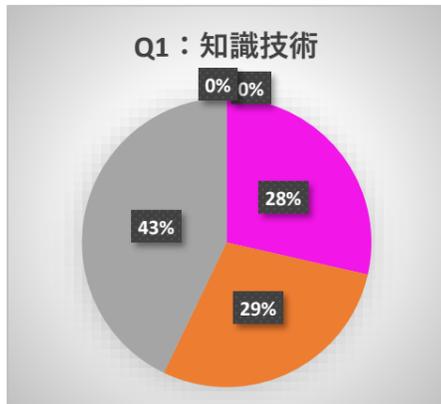
1. 保育の実践力: さまざまな保育技術のうち、自ら選んだ分野に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力することができる。(知識技術)
2. 共感する心 : さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけている。(共感愛情)
3. 言葉で表現する力: 保育や子どもにかかわる事象、諸問題を、文献や実践・現場調査から客観的な判断に基づいて説明することができる。(言葉遣い、文書を書く)
4. 人とかかわる力: 保育チームティーチングを行うために、チームの一員として協議や企画に積極的に参画することができる。(協働)

【II. 2021年度卒業生 就職先アンケート（就職先評価）】 n=7 （単位：件）

7名/8名 回収率88%

質問	1	2	3	4	5
Q1. 保育に関して必要な基本知識・技術を身につけ実践できていると評価できますか。	2	2	3	0	0
Q2. 子どもの立場に立って考え、子どもに共感しながら愛情深く関わっていると評価できますか。	3	3	1	0	0
Q3. 保育(業務)を行う上で、適切な言葉を用いて話す力、書く力を身につけていると評価できますか。	2	2	3	0	0
Q4. 他の職員と適切に協働できていると評価できますか。	5	0	0	2	0

※評価：1 - 評価出来る 2 - やや評価できる 3 - どちらとも言えない 4 - やや評価できない 5 - 評価出来ない



(小数点以下、四捨五入)

卒業年度別 「評価できる・ややできる」の比率

	知識・技術	共感・愛情	言葉遣い	文章を書く	協働
2018年度卒業生	1	1	1	1	1
2019年度卒業生	0.3	1	0.7	0.3	0.3
2020年度卒業生	1	1	1	1	1
2021年度卒業生	0.57	0.86		0.57	0.71

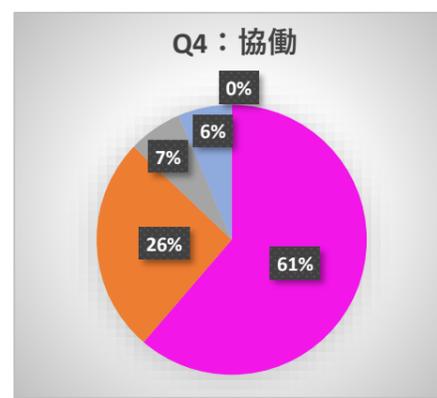
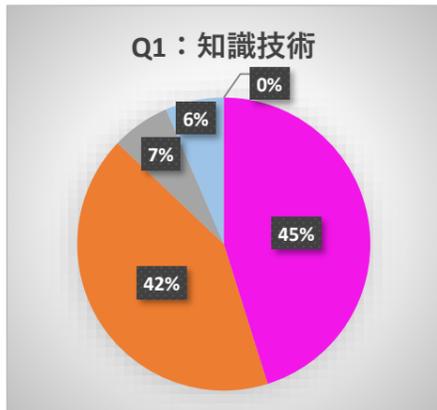
※2021年度卒業生分よりディプロマ・ポリシーの項目とアンケートの項目を統一した。

【Ⅲ. 2021年度修了生 就職先アンケート（就職先評価）】 n=31 （単位：件）

31名/40名 回収率78%

質問	1	2	3	4	5
Q1. 保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか。	14	13	2	2	0
Q2. さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか。	14	13	2	2	0
Q3. 保育（業務）を行う上で、適切な言葉遣いや言語表現ができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか。	10	12	5	4	0
Q4. 他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか。	19	8	2	2	0

※評価：1－評価出来る 2－やや評価できる 3－どちらとも言えない 4－やや評価できない 5－評価出来ない



(小数点以下、四捨五入)

卒業年度別 「評価できる・ややできる」の比率

	知識・技術	共感・愛情	言葉遣い	文章を書く	協働
2018年度修了生	0.8	0.95	0.82	0.72	0.92
2019年度修了生	0.91	0.87	0.8	0.78	0.91
2020年度修了生	0.84	0.74	0.6	0.63	0.84
2021年度修了生	0.87	0.87		0.7	0.87

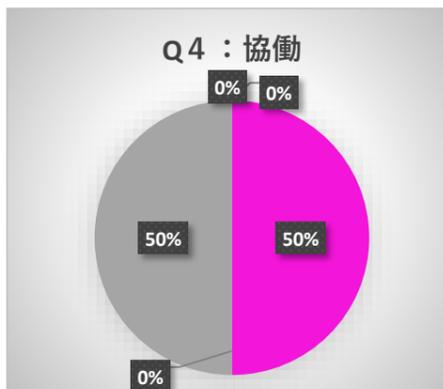
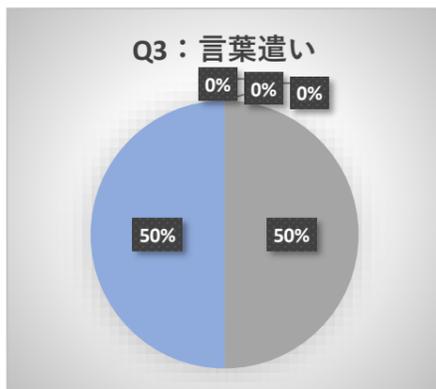
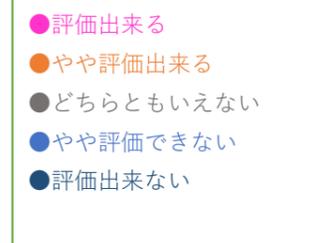
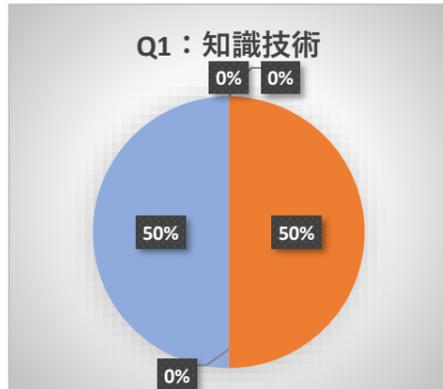
※2021年度修了生分よりディプロマ・ポリシーの項目とアンケートの項目を統一した。

【IV. 2021年度卒業生 キャリアアンケート（本人評価） 社会人1年目】 n=2 （単位：件）

2名/8名 回収率25%

質問	1	2	3	4	5
Q1. 保育に関して必要な基本知識・技術を身につけ実践できていると評価できますか。	0	1	0	1	0
Q2. 子どもの立場に立って考え、子どもに共感しながら愛情深く関わっていると評価できますか。	0	1	1	0	0
Q3. 保育(業務)を行う上で、適切な言葉を用いて話す力、書く力を身につけていると評価できますか。	0	0	1	1	0
Q4. 他の職員と適切に協働できていると評価できますか。	1	0	1	0	0

※評価：1 - 評価出来る 2 - やや評価できる 3 - どちらとも言えない 4 - やや評価できない 5 - 評価出来ない



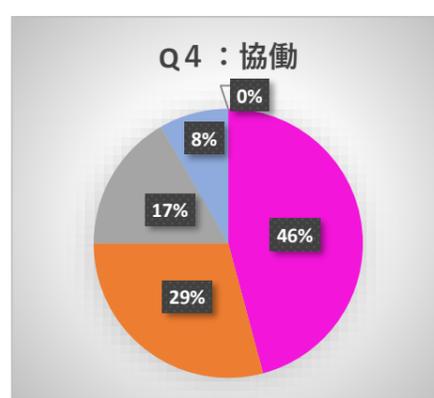
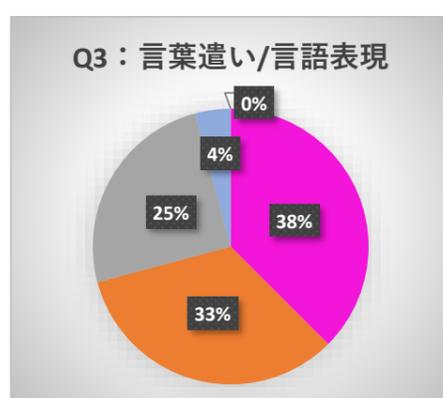
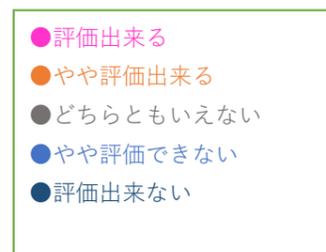
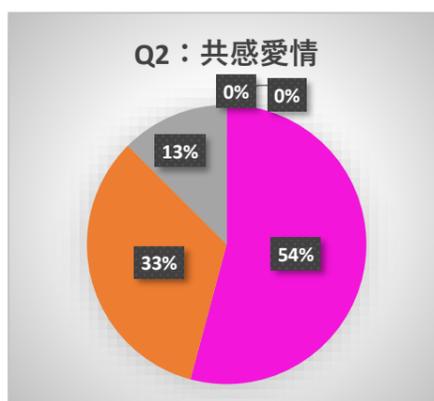
(小数点以下、四捨五入)

【V. 2021年度修了生 キャリアアンケート（本人評価）、社会人1年目】 n=24 （単位：件）

24名/40名 回収率60%

質問	1	2	3	4	5
Q1. 保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか。	11	10	2	1	0
Q2. さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか。	13	8	3	0	0
Q3. 保育（業務）を行う上で、適切な言葉遣いや言語表現ができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか。	9	8	6	1	0
Q4. 他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか。	11	7	4	2	0

※評価：1－評価出来る 2－やや評価できる 3－どちらとも言えない 4－やや評価できない 5－評価出来ない



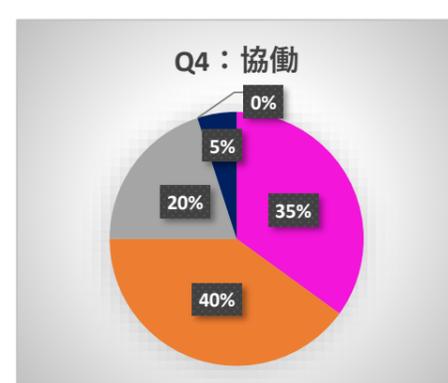
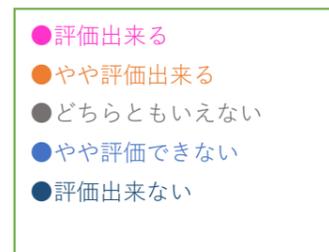
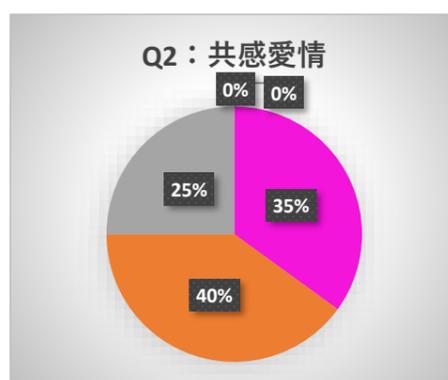
(小数点以下、四捨五入)

【VI. 2020年度修了生 キャリアアンケート（本人評価）、社会人2年目】 n=20

20名/50名 回収率40%

質問	1	2	3	4	5
Q1. 保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか。	5	13	2	0	0
Q2. さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか。	7	8	5	0	0
Q3. 保育（業務）を行う上で、適切な言葉遣いや言語表現ができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか。	4	5	8	3	0
Q4. 他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか。	7	8	4	0	1

※評価：1 - 評価出来る 2 - やや評価できる 3 - どちらとも言えない 4 - やや評価できない 5 - 評価出来ない



(小数点以下、四捨五入)

<令和3(2021)年度卒業生・専攻科修了生(社会人1年目)からの回答結果について>

本学の卒業生は子どもの立場に立って共感しながら愛情深く関わっていることは高い評価を得ていた。一方で、保育に必要な基本知識・技術の習得には課題があるといえる。また、職場において適切に協働できているかという点では「やや評価できない」と示された卒業生が29%いることから、特に在学中に個々の指導を丁寧に行う必要があるといえる。

修了年度ごとの就職先評価の傾向からすると、コロナ禍初年度の令和2(2020)年度の専攻科修了生は就職後の評価の値がすべての項目にわたって大幅下がったが、令和3(2021)年度専攻科修了生に関してはすべての項目で改善が見られている。全体として専攻科修了生は就職先ともに比較的高い評価を得ているといえるが、「言葉遣い/言語表現」に関しては、専攻科修了生・就職先双方から他の質問項目より評価が低く出ていることから、引き続き「言葉遣い/言語表現」に関しては改善策を検討・実施して行く必要があるといえる。

全体としては幼児保育学科卒業生よりも専攻科幼児保育専攻修了生の方が、すべての項目において就職先からの評価が高いことから、1年間の専攻科での教育成果や学びの質が高いということがいえる。

<令和2(2020)年度卒業生・専攻科修了生(社会人2年目)からの回答結果について>

「知識技術」「共感愛情」「協働」の項目においては2年目修了生と1年目修了生の間で大きな差はなかったが、「言葉遣い/言語表現」の項目において「評価できる」「やや評価できる」と回答した2年目修了生は1年目修了生より26ポイントも少なかった。前年度の調査の際はこの項目は「言葉遣い」「文章力」の2つの項目に分かれていたため単純な比較はできないが、「言葉遣い」「文章力」2つの平均が2年目修了生は69%、1年目修了生は56%であったことを考えると、前年度の2年目修了生と比較しても自己評価が低く、社会人1年目よりも自己評価が低くなっていることになる。この学年ならではの特徴の可能性があるが、今後の調査と比較・検討していきたい。いずれにせよ、言葉遣いや言語表現については本学全体で取り組むべき課題であるといえる。

